



CONTENTS

- 2 病院長挨拶
- 3 訪問リハビリテーションのご紹介
- 4 介護療養型医療施設のご紹介
- 5 栄養管理科からのお知らせ
- 6 地域連携室からのお知らせ
- 7 医療法人悠紀会からのお知らせ

基本理念 皆さまの健康で豊かな生活を支えるために、信頼される真心のサービスを提供します。

- 基本方針**
- 1、社会的役割・・・信頼される医療サービスを提供し、地域住民の健康で豊かな生活に貢献します。
 - 2、利用者さまの尊厳と権利の尊重・・・利用される方々の尊厳と権利を尊重した医療サービスを提供します。
 - 3、快適な環境・・・希望をもって豊かな生活を送ることができる環境づくりをめざします。
 - 4、チーム医療・・・全人的・総合的最善の医療サービスを提供する為に「チーム医療」を実践します。
 - 5、豊かな専門性・・・スタッフの人格形成はもとより、高度な専門知識の習得や技術の向上に努めます。

「当院の新型コロナウイルス陽性者発生を振り返って(ご報告)」

悠紀会病院 院長 古森 顕一



朝夕と昼間の気温差も大きく、実り多い季節となりました。本来は絶好の行楽シーズンですが、新型コロナウイルス感染症の影響も長く続き、まだゆっくり楽しめるまでは難しいと感じるところです。

さて、一部報道にもありました通り、本年8月上旬に当院でも職員1名の新型コロナウイルス感染症の陽性者が確認されました。当時は県内でも連日2桁の陽性者が出ており、特に県北地域は、大規模なクラスターが発生していた関係もあって、日々緊張の中で日常生活や業務が行われていた状況でした。「感染防止対策をとってはいるものの、当院もいつかは…」と想定はしていたところですが、現実となるとやはり難しい問題にいくつも直面しました。病院のみならず、併設の介護施設等へも影響が及び、患者様やご利用者をはじめ、多くの関係機関の皆様にも不安や心配をおかけすることとなりました。

保健所の迅速な対応もあり、短期間でしたが30名を超える他職員等のPCR検査で全員が陰性と確認されるまではとても長く苦しい時間でした。当該職員の明確な感染経路は不明でしたが、幸いにもクラスターに発展することなく、風評被害も最小限に抑えられ、速やかに病院および法人全体のサービスを再開できたことに安堵したところです。

国や自治体から推奨されている感染防止対策をいかに実施していたとしても完全に防ぐことができるかはわかりません。いつ次の陽性者が発生しても不思議ではない状況の中で、医療機関としても改めて一人ひとりが危機意識を持って慌てずに対応ができる想定と準備が何よりも大切だと痛感しました。

当院の感染対策防止策の様子



病院入口等に体温センサーを設置



リモートによる面会



訪問リハビリテーションのご紹介

当事業所には、理学療法士(2名)、作業療法士(2名)、言語聴覚士(1名)が在籍しています。特に今年度から、言語聴覚士による訪問リハビリを開始したことで、より細かいニーズに即した対応が可能になりました。これからも派遣職種及びスタッフを増員して、より地域の要望に応えられる体制を整えていきたいと思っております。

《対象エリア》

当院から車で30分圏内であれば相談に応じます。
 玉名市、玉東町、和水町、南関町
 その他、熊本市北区(植木町)、熊本市西区(河内町)など

～現在、実施中のエリア～

玉名(伊倉北方・石貫・大浜・上小田・亀甲・玉名・
 築地・津留・富尾・三ツ川・山田・立願寺・月田・大倉)
 岱明(高道)、和水(江田・長小田・藤田・用木・蜻浦)
 玉東(稲佐)、熊本市西区河内町(野出)



《サービス提供日》

月曜日～金曜日(9時～17時終了)

《ご利用対象者》

介護保険制度による要介護・要支援認定を受けている方

～現在、実施中の主な疾患の例～

脳梗塞・脳出血・脳腫瘍術後・パーキンソン病・認知症・廃用症候群・大腿骨頸部骨折・上腕骨頸部骨折・脊髄損傷・
 乳癌・関節リウマチ

その他

訪問リハビリテーションサービスは、1回の訪問当たり40分で提供させて頂いております。ただし、必要に応じて提供時間の変更は可能ですので、遠慮なくご相談ください。

サービス提供例



ご家族やご友人と円滑なコミュニケーションが図れるように、言語聴覚士と共に話し方の練習を行っています。



作業療法士と共に園芸活動を行っています。家に引きこもりがちな利用者様が、自主的に屋外に出て活動されるようになりました。

※利用に関するご相談は、下記までお問い合わせください。

【お問い合わせ先】 医療法人 悠紀会病院 訪問リハビリテーション担当者まで ☎0968-74-1131



介護療養型医療施設のご紹介



当院の最上階にある4階病棟(介護療養型医療施設)は、要介護認定を受けている方を前提に、在宅での生活が困難な方や長期の医療処置や経過観察が必要(経管栄養・胃瘻造設後、ターミナルケア等)な方々にご利用いただいています。今号では、当病棟での取り組みについてご紹介します。

●ご利用者様の介護度割合(令和2年9月末時点)

要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均介護度
0%	0%	2.3%	54.5%	43.2%	4.4

基本的な取り組み

- ご利用者様のニーズに対応した療養の場を提供できるよう取り組んでいます。
- ケアチームにより、日々検討しながらケアの質の向上に努めています。

様々な取り組み

1 病棟レクリエーションに取り組んでいます

一般的にレクリエーション活動は手薄なイメージがある介護療養型医療施設ですが、利用者様同士や職員とコミュニケーションを取りながら交流を図り、季節感を味わっていただく等の季節行事や活動に取り組んでいます。今年はコロナウイルス感染防止のため、ご家族との交流会を中止せざるを得ないことが残念です。



2 自宅や在宅系施設への退所支援に取り組んでいます

在宅復帰や介護施設入所の可能性を多職種で検討し、実際に支援・調整を行っています。年間件数として、昨年度は8名の方(自宅3名、特別養護老人ホーム5名)を支援することができました。



3 摂食嚥下に取り組んでいます

感染防止や食事の楽しみを継続していただくよう、言語聴覚士・歯科衛生士と連携を図り口腔内の健康状態が維持できるよう、口腔ケアの充実を図っています。



口腔ケアの充実



秋もご注意！ 食中毒！！！！

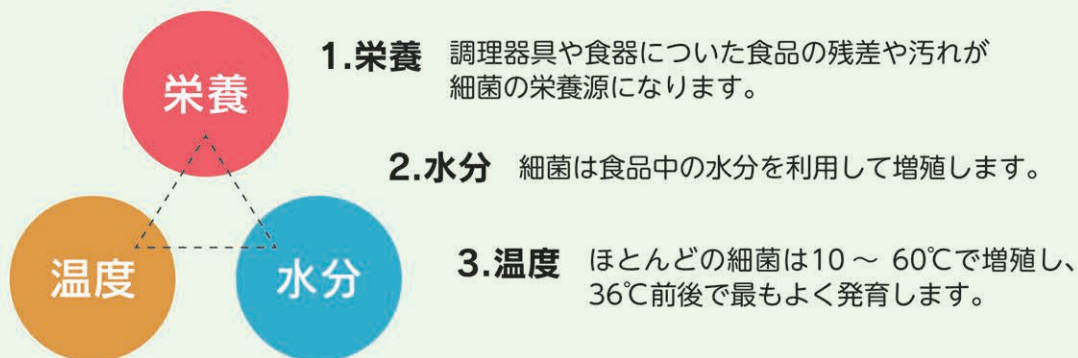
食中毒は夏場に多いと思われがちですが、
実は秋や冬にも多くの食中毒が発生しています。
今回は秋に多い細菌性食中毒の原因と予防について紹介します。



「感染型」と「毒素型」

細菌性食中毒は大きく分けて「感染型」「毒素型」の2つに分けられます。「感染型」は食品内で一定数以上に菌数が増殖した原因菌を摂取し、腸管内で感染することによって発症します。「毒素型」は食品内で原因菌が増殖する際に毒素を産生し、その毒素を食品と一緒に摂取することにより発症します。

！ 食中毒が発生する条件



3つの条件がそろい「時間」が経過すると **食中毒発生！**

！ 食中毒予防のために

食中毒予防の3原則は「菌をつけない」「菌を増やさない」「菌を撃退する」です。

- ①菌をつけないためには、調理器具や手洗いをしっかり行う。
- ②多くの菌は高温多湿を好みます。10℃以上の環境では急激に増殖しますが、逆に10℃以下の環境では増殖が抑えられ、マイナス15℃以下では増殖は止まってしまうので、できるだけ早く冷蔵し、低温保存してください。
- ③多くの細菌は過熱することで死滅させることができます。肉類は中心部を75℃で1分以上過熱すると安心です。

ただし、偏性嫌気性のウェルシュ菌は芽胞ができると加熱しても死滅しないので、カレーなどを大量に作り保存する際は、小分けするなどして、少しでも早く冷やす工夫をしてください。

地域連携室からのお知らせ

医療ソーシャルワーカーのしごと

特集 社会復帰援助

これまで、私たち医療ソーシャルワーカーの仕事内容について、厚生労働省から示された「医療ソーシャルワーカー業務指針」(2002年)をもとに紹介してきました。そして今回は、その業務指針に掲げられている「社会復帰援助」について紹介します。

私たち医療ソーシャルワーカーが支援に携わる場面というのは、患者さんが病気を抱え、外来通院や入院を余儀なくされた時です。当院では、脳卒中の救急治療を終えた患者さんがリハビリテーションによる回復を目的に急性期病院より転院してくるケースが多く見受けられます。突然の病気は、これまでのあたり前の生活を大きく変化させ、障がいの残存によって、退院後の暮らしに不安や悩みを抱かせることとなります。ましてや仕事をしてきた方や家庭でお子さんをお持ちの方は、元の生活に戻るのだろうか、将来的な不安に陥りやすい傾向にあります。最近メディアを通して、歌手やタレントさん、スポーツ選手などが脳梗塞になったというニュースも多くなってきたのではないのでしょうか。私たちも以前よりも40代、50代の患者さんの支援に携わることが多くなったことを実感しています。これから事例をもとに「社会復帰援助」に関して紹介します。

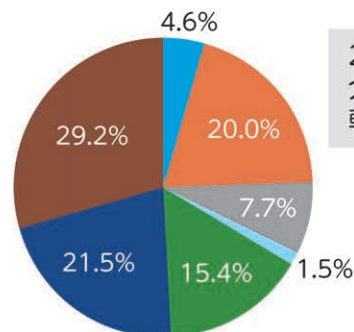
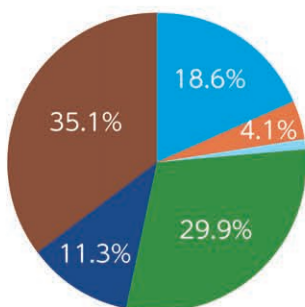
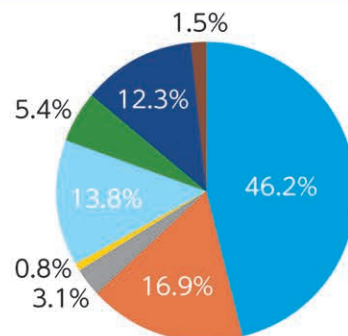
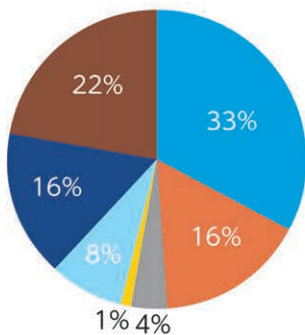
例えば、会社勤めの40歳代の方が脳梗塞を患ったとします。この方は一家の大黒柱で、家族3人を養っていました。脳梗塞により身体の左側に麻痺を患い、リハビリのため当院

に入院することになりました。私たち医療ソーシャルワーカーは、社会福祉の専門的知識や技術を用いて、患者さんの退院後の暮らしを見据え生活再建に向けた支援を行います。私たちの一方的な支援にならぬよう、患者さんやご家族の想いをしっかりと受け止め、一緒になって社会復帰を目指していきます。入院中は、患者さんのみならず、残された家族にも目を向け、患者さんの収入が途絶えないように傷病手当金などの手続きを支援し、このご家庭の生活の安定を保つよう務めていきます。また、職場復帰に向けては、会社側との話し合いを行ったり、実際に職場に訪問したりして、復職への可能性を見出しています。回復の程度によって復職が困難な場合は、ハローワークへ患者さんと出向き、転職の相談を行うこともあります。また、自動車運転については、教習所での試乗訓練や免許センターとの連絡調整を行っています。これらは、私たち医療ソーシャルワーカーのみで支援するのではなく、多職種で構成されたチームによって、社会復帰に取り組んでいます。

私たち医療ソーシャルワーカーは、患者さんが退院後も「社会」とつながりが持てるよう、各々に必要な社会資源を活用して支援します。それは、職場であったり、趣味活動の場であったり、個々のこれまでの生活の営みによって違います。障がいを患った影響でそれらの関係を断つのではなく、自身の身体と向き合えるよう患者さんとともに「社会」とのつながりを築きあげていきます。

※以上で医療ソーシャルワーカーのしごとの特集は終了です。次号をお楽しみに。

2019年度診療実績



■自宅 ■居住系施設 ■特別養護老人ホーム ■グループホーム ■介護老人保健施設 ■転棟 ■転院 ■死亡

・医療法人悠紀会からのお知らせ・



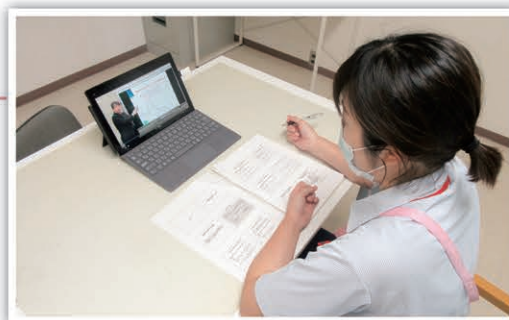
体温センサーを設置しています

<体温測定のご協力お願い>

新型コロナウイルス感染症対策として、「(検温顔認識)サーマルカメラ」の導入を行い、院内へお入りいただく前に「検温とマスク着用」のご協力をお願いしています。マスクを着用されていない場合は、「マスクを着用して下さい！」とアナウンスが流れます。病院入口以外にも併設の介護老人保健施設ゆうきの里入口および職員通用口にも設置されています。

感染防止対策研修会でスキルUP！

法人職員が全員参加する研修として位置づけられ、毎年複数回に分けて開催されています。今回も講義形式はとらず、個人や少人数でPCやDVDを用いた動画閲覧で新型コロナウイルス感染症について学びました。予防から発生時対応に至るまでの最新情報を現場に活かすことがこれからも求められます。



身体拘束等適正化研修 『『自分らしく』を支え続けるために』

～令和2年8月27日(木)～



病院や介護施設には様々な支援を必要とする方がいらっしゃいます。支援者という立場である私たちは、一方で患者様や利用者様の尊厳や権利を侵害しやすい立場にあります。この研修は、それを念頭に全てのスタッフが、日常の業務の中で「積極的に患者様や利用者様の尊厳と権利を守り」、虐待や身体拘束の無い関係を問い続ける姿勢を学ぶために企画しています。今回も法人職員が講師となり、ソーシャルディスタンスを守った環境の中で行いました。

献血 ～令和2年7月28日(火)～ 献血実施人数36名

法人職員や関係業者様の協力の下、コロナ禍で献血者数が低下していることもあって、毎年12月に行っている献血を今年は7月にも行いました。当日は40名の方に受付いただき、結果、昨年の33名を更新し36名の実施で過去最多となりました。次回は12月24日の予定ですが、更に実施人数が増えることを期待したいです。



事前の
お知らせ

Webサイトをリニューアル予定です！

現在、悠紀会のWebサイトをリニューアル中です。皆様にとって、より見やすい構成やデザインに改善しており、更にスマートフォンからも快適にご利用いただけるようになる予定です。開始時期は改めてお知らせいたします。

外来診療担当医表

診療時間【午前9:00～午前12:00(受付午前11:30まで)、午後1:30～午後5:00(受付午後4:30まで)】

診療科	月	火	水	木	金
内科	紫藤 忠博	高木 和男	松村 利昭	高木 昭宏 紫藤 忠博	
循環器内科			古森 顕一		古森 顕一
リハビリテーション科		伊勢 紘平 (整形外科)			山崎 裕子

診療科

●内科 ●リハビリテーション科 ●循環器内科 ●歯科(予約制)

相談、その他

● 外来・訪問リハビリテーション相談 ● 摂食嚥下相談 ● 整形外科相談

病棟構成

入院病床数 139床

回復期リハビリテーション病棟	32床
医療療養病棟	50床
介護療養型医療施設	57床

診療設備

マルチスライスCT撮影装置
X線テレビ装置
一般用X線装置
PACS(医用画像管理システム)
超音波診断装置
心電図モニター
生化学自動分析装置

関連事業所

- ◆訪問リハビリテーション 悠紀会病院
- ◆介護医療院 ゆうきの里
- ◆介護老人保健施設 ゆうきの里
ゆうきの里 通所リハビリテーション
介護相談センター ゆうきの里(居宅介護支援)
- ◆グループホーム ゆうきの家
- ◆小規模多機能ホーム ライフサポートいわさき
- ◆小規模多機能ホーム しいの木の里(山鹿市)
- ◆社会福祉法人ゆうき会
特別養護老人ホーム ケアタウン光の森(菊陽町)

アクセス



〒865-0011

熊本県玉名市上小田1063番地

TEL 0968-74-1131 FAX 0968-74-3821

ホームページ <http://www.yukikai.or.jp>



各種相談については、地域連携室へお尋ねください。

TEL 0968-74-1131

※お電話による問い合わせは、月曜日～金曜日の午前9時～午後5時までとなっております。